

神戸大学学術情報基盤センター設置

学術情報基盤センター長 富田佳宏

社会の情報化が急速に進展した結果、情報技術は特別なものではなく、もはや当たり前のものとなりつつある現在、ネットワークをはじめとする情報基盤なしに、大学の教育・研究は成り立たなくなってきました。学問分野を問わず、高度な情報技術の利用可能なインフラの整備が教育研究の発展を支配すると言っても過言ではありません。このような、めざましい情報科学の進展とそれに伴う広範な計算機利用に呼応して、神戸大学における教育研究活動の情報化支援とそのための情報基盤の整備・運用を行い、神戸大学情報化戦略の中核として、情報教育のあり方を研究し、安全で強力な情報化サービスの提供についての企画・検討を進める機関の設置が強く要請されておりました。学内外の多くの方々のご理解とご支援を得て、平成15年4月に総合情報処理センターを拡大改組し、神戸大学学術情報基盤センターが設置され、同10月の神戸商船大学情報処理センターとの統合を経て、名実ともに新たなセンターがスタート致しました。

本センターは、教育用計算機システムの整備と運用管理を行う「教育支援基盤研究部門」、研究用計算機システムの整備と運用管理を行う「学術情報処理研究部門」、およびネットワークシステムの整備と運用管理を行う「ネットワーク基盤研究部門」の3研究部門を擁し、9名の専任教官と事務部によって構成されております。

学術情報基盤センターでは、高度で安全な情報サービスを通して、大学で生み出される知的資産の蓄積・流通の支援、遠隔キャンパスにおける共通教育などの効率化・高度化を含む大学の教育研究活動の活性化、セキュリティ維持を含む情報ネットワークの統括設計管理・運営、デジタルデバイドを発生させないためのサービス・教育機能の提供等を致します。さらに、情報技術の研究開発を行うことにより、実用性の高い研究成果を生み出し、それを学内外に提供致します。このようなセンターの様々な活動を通して、神戸大学が目指す「知の拠点の創生」に対して貢献致します。そのために神戸大学の統合的「IT戦略」との整合をとりつつ、運用実務担当スタッフの確保育成に努め、全学的な連携体制をとりその責務を果たす所存であります。

情報化技術に限なく浸透している今日、この恩恵を皆様とともに共有するためには、セキュリティについて大学の構成員すべてが関心を持ち、その影響の大きさを認識することが肝要であると考えております。今後とも、皆様方のご協力、ご支援を頂きますようお願い申し上げます。